

今年も無事にじんぐうじまつり・観音祭を厳修出来ました。お寺ならではのプログラムを探し、お寺だからこそ出来ることを考え、毎年迎えています。来場された皆様、出演・出店のご協力をいただいた方、誠にありがとうございます。



遷化

良啓

旧盆直前の九月初めに先代住職が遷化しました。享年七八歳。修行途中で先々代が急逝した為、卒業後直ぐに住職となりました。普通は、住職の下でその地域のしきたりを学ぶのですが、その住職は既に不在の為、かなり苦労したと聞いています。京都と沖縄の交流がほとんど無い状況でしたが、約三十年前、本山の九州支所長に就任して変わりました。全国から東寺末寺僧侶の研修会を沖縄で開催し、人的交流が始まりました。続いて、本山主催の大柴燈護摩（火渡り行）を宜野湾海浜公園で厳修しました。

法務以外では、宜野湾青年会議所に所属し、理事長や県ブロック長を兼任し、地域の発展に勤めました。また、長年、社会福祉法人蒼生学園の役員を務めて、障害者の生活を助けていました。他にも、宜野湾市観光振興協会や宜野湾普天間ライオンズクラブの役員も務めました。

右記の様に諸活動を行い、社交的な性格も手伝い、葬儀当日は約五百名の会葬をいただきました。お陰様で、先日無事に満中陰を迎えました。この場をお借りして、先代の生前にご交流頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。合掌

先祖供養が必要なわけ

（出版記事よりの抜粋です）

寺務員 白保

そもそも、何故先祖供養は大切なのでしょうか。

人間の御霊（みたま）は死後一度「幽界」という生と死の間にある世界へ行き準備を整え「あの世」である「霊界」に旅立ちます。

しかし誰かがその道程をナビゲーションしてくれるわけではありません。そこで生き残った子孫が仏様の力を借り、故人の魂を霊界へと導くのが「供養」です。

供養の目的は魂が現世を離れて霊界に旅立ち浄化された後、また新たな生を受けて現世に戻るといふ仏様の「六道輪廻」（ろくどうりんね・りくどうりんね）の考え方に基づいています。

もちろん私たちは仏様と直接話したり力を借りたりできません。そこでお坊さんにお経をあげてもらい供養を行うのです。

この供養を三十三回（宗派によつて異なる）重ねる事で魂は霊界にたどり着き「輪廻転生」（りんねてんしょう・りんねてんせい）の輪に再び入ることができます。

この出版記事を読んで供養の意味や必要な訳、ご先祖様の大切さをより知ることが出来、供養はご先祖様から受け継がれてきた「徳」を授かり、またそれを子孫へと分け与える行為です。

感謝の気持ちを伝えること、お墓参りをし、手を合わせることも仏壇に手を合わせ思い出話をする事も故人を偲び、供養する方法は多くあります。